

9. 広報活動

1. はじめに

大型放射光施設（SPring-8）が学術の発展や産業の振興に如何に貢献しているかについて国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野の拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。2008年度も前年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、各種イベント開催等、SPring-8における活動情報を分かり易く、タイムリーに発信することに努めた。具体的には、①プレス発表、取材対応等マスメディアへの情報発信、②パンフレット、SPring-8紹介DVD等広報資料・映像の制作、③ホームページの管理運営、④見学者の受付及び案内、展示室の運営等の見学者受入れ、⑤施設公開、高校生のためのサマー・サイエンスキャンプ、展示会出展等各種広報行事の開催、等を実施した。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8を利用した研究成果や施設公開等のイベント情報等を東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2008年度の発表件数は25件（記者会見7件、資料配付18件）であった。

その中でも特に、名古屋大学の篠原久典教授、北浦良助教授らによる発表「ナノチューブの中でナノ物質の合成に成功」は社会的関心も高く、10社以上の紙面で取り上げられた。

2-2 取材対応

新聞、テレビ、雑誌等のインタビューや写真・映像撮影等、関係者がSPring-8を直接訪れて行う取材への対応である。2008年度は25件の取材があり、内訳は新聞9件、雑誌等の出版物6件、テレビ5件、ビデオ・DVD制作5件であった。取材の目的としては、施設公開や西播磨地区PRの一環といったものからSPring-8で実施している研究内容や放射線管理に関するものまで多岐に渡った。特に多かった取材は、SPring-8における産業利用の成果や今後の展望に関するものであり、マスメディアの関心の高さが窺える。

また、新聞、テレビ各社からの電話により、放射光発生仕組みや現在の設置ビームライン数、産業利用の現状等基本的内容の確認やプレス発表の内容等に関し、種々の問い合わせが年間を通じて数多くあった。

3. 広報資料の制作

広報資料としては、和文広報誌「SPring-8 NEWS」、

SPring-8パンフレット（和文・英文、三つ折り和文）、SPring-8リーフレット（1枚もの和文）、SPring-8産業利用成果パンフレット（和文・英文）、普及棟展示室案内パンフレット（和文）、SPring-8紹介DVD、SPring-8関連の写真・映像、研究成果等の各種パネルがある。

「SPring-8 NEWS」は、編集委員会において編集方針、記事企画、校正等の業務を遂行し、広報室が編集委員会事務局を担当して隔月誌として年6回発行した。トピックス記事については、より分かり易い表現を心がけるとともに、「コラム」欄を設けて研究者の人となりに触れる、親しみの持てる工夫を行った。また、2008年度内にSPring-8パンフレット（和文）は3回、SPring-8パンフレット（英文）は1回改訂増刷を行った。さらに、2007年度に発行したSPring-8産業利用成果パンフレットを改訂し、2008年度版を発行した（図1）。利用成果事例を1件減らして15件とし、理事長の挨拶及び産業利用状況のページを新たに追加した。また、各事例の説明文、イラストを一新し、より分かり易い内容とした。冊子としての発行のみならず、デジタルパンフレットとしてオンライン版（ウェブ版）及びCD-ROM版も発行した。さらに、英語版も編纂し、オンライン版（ウェブ版）及びCD-ROM版として発行した。

この他、一般見学者により分かり易く、親しみやすいSPring-8紹介DVDを新たに制作した。2004年度に制作したSPring-8紹介DVDは、技術や成果を中心とした内容となっていたが、今回はSPring-8を実際に利用して様々な研究を行っている研究者の顔が垣間見られるような内容にし、X線自由電子レーザー施設（XFEL）の完成後の将来



図1 産業利用成果集改訂版と2008年度版SPring-8紹介DVD

像も含むものとした。今回制作したDVDはSPring-8予約見学ツアーの見学者や展示会での来場者に視聴してもらい、また、SPring-8ホームページ上でストリーミング配信を行う等、適宜SPring-8の紹介に活用している。

SPring-8では、国際結晶学会（IUCr）が年6回発行する論文誌「Journal of Synchrotron Radiation」に施設情報を2004年以来毎号掲載し、放射光科学の普及に貢献している。2008年度は研究成果5件（共用ビームライン2件、理研ビームライン1件、JAEAビームライン1件、XFELのプロトタイプ機1件）及び産業利用概要の6トピックスを取り上げた。

4. ホームページの管理運営

ウェブは極めて重要な広報手段の一つである。2001年度から広報室がSPring-8ホームページ（http://www.spring8.or.jp/）の管理・運営を行い、WWW編集委員会の事務局も広報室に置かれている。2006年2月にSPring-8ホームページの全面刷新が行われたが、ホームページをさらに充実させるため、2008年度はWWW編集委員会を9回開き、コンテンツや構造の改善、デザインの検討、ウェブの運営方針の検討等を行った。検討結果の一部は、後述のSPring-8ホームページ2009年度改訂の検討に引き継がれた。懸案事項となっていた「研究系職員検索機能」については、2007年度内にシステムの実装を完了し、2008年9月に公開した。

2008年度におけるSPring-8ホームページ（トップページ）への総アクセス数は498,988件であった。日最大アクセス

件数は2,314件、日平均アクセス数は1,397件、平日の日平均アクセス数は1,638件、休日（年末年始を含む）の日平均アクセス数は828件、ユーザータイム期間中の日平均アクセス数は1,521件（年度183日）、非ユーザータイム期間中の日平均アクセス数は1,212件（年度182日）であった。

また、同年度における主要コンテンツの更新頻度は、日本語ページ及び英語ページ合わせて957件（月平均80件）であった。「プレスリリース・トピックス」欄に掲載されたSPring-8の研究成果に関わるプレス発表記事は45件であった。SPring-8の定期刊行物（SPring-8 NEWS、SPring-8 Research Frontiers、SPring-8 利用者情報、SPring-8年報）のほかに、SPring-8学術国際評価委員会報告書（2008）、SPring-8産業利用成果パンフレット（日本語版・英語版）、SPring-8パンフレット改訂版（日本語版・英語版）がオンライン発行された。

2008年5月、理研・JASRI合同のSPring-8ホームページ・ワーキンググループが設置され、SPring-8ホームページのリニューアルに関して検討が開始された。ワーキンググループでの検討の結果、WWW編集委員会の協力のもとに、2009年4月公開を目途として、改訂作業を行うこととなった。その後、WWW編集委員会は、ワーキンググループとの合同会議を開くなどして、ホームページの構造やコンテンツを見直し、リニューアル作業に当たった。

これに伴い、それまでSPring-8ホームページに掲載されていたJASRIの固有情報を移行する必要性が生じたため、JASRI独自のホームページを新規構築することとなった。

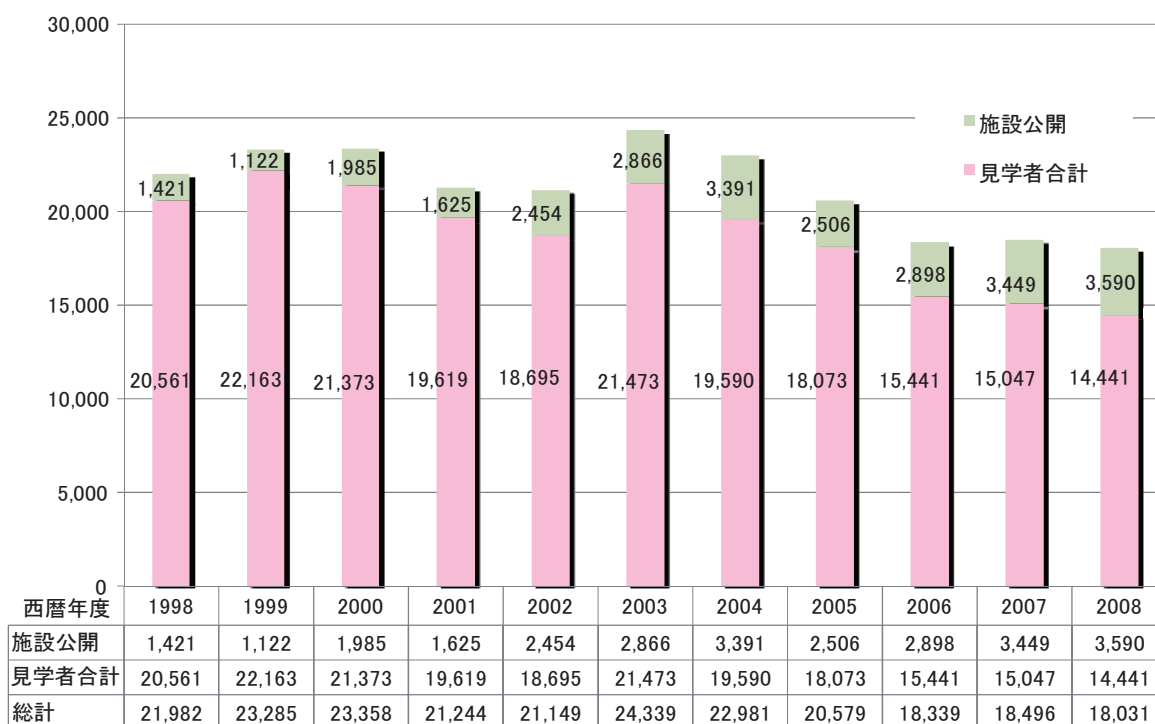


図2 見学者数の年次推移

5. 見学者の受け入れ

5-1 見学者の受付及び案内

2000年に放射光普及棟が開設されて以来、年末・年始を除き原則として毎日見学者を受け入れている。2008年度には、施設公開日の来訪者（3,590人）を除いて1,483件、14,441人の見学を受け付けた。これまでの来訪者の推移を図2に示す。1997年の供用開始以来、見学者の数に大きな変化はないが、2008年度は、学校や企業からの見学のほか、生涯学習のグループ等の見学の増加が特徴的であった。

5-2 展示室の運営

展示品については、①レーザー回折模型の改良とその説明パネルの制作、②視聴覚コーナーへの主な広報行事のパネルの設置、③体験型模型の配列の見直し、④ロイコトリエン酵素模型の設置を行った。

レーザー回折模型については、従来のアルミ箔に針で穴をあけたパターンをやめて白黒フィルムに回折パターンを描画する方法を採用した。これにより複雑な回折パターンも正確に描画できるようになった。回折像の投影についても、レンズで拡大して前面のスクリーンに拡大投影できるように改造した。併せて、X線回折の原理も学習できるように説明パネルを改訂した（図3）。また、視聴覚コーナーにSPring-8における数々のイベント活動を紹介しますパネルを壁面に展示した（図4）。体験型模型の配列についても見直しを行い、X線の発生から応用成果までを体験できるように模型の配列及び展示を見直した。成果コーナーにアレルギー反応の原因物質を作るたんぱく質「ロイコトリエン酵素」の模型を新たに設置した。

6. 広報行事

6-1 施設公開

4月27日（日）、科学技術週間に因んで、16回目となるSPring-8施設公開を理研とJASRIの共催で、キャンパス内



図3 レーザー回折模型と説明パネル



図4 展示室視聴覚コーナーに新設したイベント活動紹介パネル

の各機関の協力を得て開催した。好天に恵まれたこともあり、3,590人もの来場者で大いににぎわった（図5）。今回は、2008年2月15日にオープンした兵庫県放射光ナノテク研究所が新たに公開された。ナノテク研究所では、電子顕微鏡を用いて花粉分子をモニターに映し出したり、変装した講師によるセミナーが開催されるなどし、大人から子供まで好評であった。また、SPring-8サイト内で撮影が行われた映画「神様のパズル」の撮影風景の写真展示や科学講演会（「彗星の塵」、「農産物の産地判別」、「自動車触媒」、「昆虫のはばたき」）も好評で、SPring-8の新たな一面を発見してもらえる良い機会となった。その他各会場では、実際に手で触れることができるような体験イベント・コーナーを数多く設けていたこともあり、これらのコーナーは科学の不思議に興味津々の子供たちで絶えず一杯であった。



図5 施設公開の様子

6-2 高校生のためのサイエンス・サマーキャンプ

本サマーキャンプは、高校生が体験実習や研究者との交流を通じて科学技術に関心を深めてもらうことを目的として行われるものである。2008年度は、8月6日～8日の3日間の日程で、JASRI、理研及び（財）ひょうご科学技術協会の共同主催で実施し、兵庫県内の高校生19名が参加した。初日はSPring-8の施設見学と理研の山下敦子チームリーダーによる「生命を支える精巧なナノマシン・タンパク質」と題する講演を聞いた後、施設見学、交流会、西はりま天文台の見学を行った。2日目は4グループに分かれ、「光通信の仕組みを調べる」、「光や音の不思議な振る舞い」、

「酵素のはたらきを調べよう」、「安全・安心を守る技術」のテーマについて体験実習を行い、熱心に課題に取り組んだ（図6）。3日目はまとめと発表が行われ、実習担当者等の聴衆からは難しい質問も投げかけられたが一生懸命に説明しようとする姿勢が感じられた。多くの参加者にとっては初めての体験ばかりで疲れも見えたが、最後の写真撮影では充実感のある笑顔が印象的であった。



図6 サイエンス・サマーキャンプで体験実習の高校生

6-3 高校生のためのサマー・サイエンスセミナー

本セミナーは、兵庫県の高校生を対象とし、科学講演の聴講と科学公園都市にあるSPring-8、兵庫県立大学理学部、先端科学技術支援センター等を見学する企画である。2008年度は8月11日に実施し、合計241名の高校生がSPring-8を訪れた。

6-4 出張授業

出張授業は、SPring-8の研究者等が小中学校に出向き、科学技術について実験を含めた授業を行うもので、1999年度から実施している。

2008年度は、播磨高原東小学校のサイエンス・アドベンチャー・スクール（SAS）事業に協力し、11月11日、JASRIの広報室職員が講師となり、5、6年生、約40名を対象に、「光を測ろう」というテーマで光の色と温度の関係を学ぶ授業を実施した（図7）。また、2月19日、佐用町



図7 播磨高原東小学校での出張授業

立久崎小学校において5、6年生、約40名を対象に同一のテーマで実施した。

6-5 展示会・イベントへの出展

企業や一般の方々を対象にSPring-8の理解を深め、SPring-8を利用して得られた成果や利用の方法を宣伝し、利用者を増やすため、国際結晶学会IUCr2008（8月24～27日、大阪）、真空展（9月10日、東京）、国際フロンティア産業メッセ2008（10月8～9日、神戸）、日本放射光学会（2009年1月9～12日、東京）等で展示を行った。

また、青少年の科学技術への関心を高め、理解増進を図るため、青少年のための科学の祭典2008（8月2日、西はりま会場大会）、子ども霞が関見学デー（8月20～21日）、科学体験館サイエンス・サテライトにおけるSPring-8特別展（11月6～18日、大阪）等のイベントに参加した。

さらに、これらの展示会において、SPring-8における測定技術や加速器の運転に関する理解に役立てるため、新たに可搬型の蛍光X線分析装置及び可搬型4極・偏向電磁石モデルを導入・整備した。

7. まとめ

これまで述べたように、SPring-8における活動や放射光科学の普及・啓蒙に関して、種々の手段により分かり易い情報発信に努めた。さらに効果的・効率的でタイムリーな情報発信を実現するため、その素材となる各種情報の電子化とその一元管理が必要である。引き続き、これらの実現に向けた取り組みを進めたい。

広報室
木村 豊秋